



地域の間接支援組織としての役割を担う

事例紹介

起業へ向けて、事業の種まき



地域のオリジナルスイーツお作りしますよ(^^)/

BENTEN

甲奴町はカヌーガスの産地です。時期には



事例紹介

地域の強みを生かし起業



平成25年度補正予算地域需要創造型等起業・創業促進事業の補助事業として採択されました。

事業の仕組みは、広島県が創設した“安心！広島ブランド”認定制度に認定されたお米づくりにこだわる契約農家から、小川商店が通常よりも高い価格で米を購入。その米に個装パッケージデザインなどの付加価値を付け、企業に販売するというもの。企業は、米をノベルティとして自社の顧客に提供したり、農業を守る社会貢献活動を自社HPなどでPRすることができます。

創業のきっかけは、農業の衰退。三次市甲奴町は標高300mを越える盆地にあり、寒暖の差が激しく水質も良好。おいしいお米ができる条件を満たした地域です。古くから稲作で栄え、過去には稲作反収単位日本一に輝いたこともあります。しかし近年では、農業従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加などが地域に深刻な影響を与えています。

「これを少しでも解決するためには、農業従事者の収入アップと安定化を図ることが活性化のキーポイントになると考えました」と小川さん。これを実現する手段として、中山間地域の農家と企業を直接結びつける事業を立ち上げることにしたのです。

この事業のメリットは他にもあります。米を袋詰めにする作業などは、限られた時間でしか働くことができない地域の主婦などに依頼。農家を活性化するとともに、雇用を創出し地域全体の活性化にもつなげていきたい考えです。現在、小川商店と契約を結んでいる企業は5社。あるIT企業では、自社の農業を支える取り組みをPRした米袋をオーダーし、お歳暮として取引先に贈っています。お客様に喜ばれる販促ツールとしての活用ができ、その可能性は無限大です。

「過疎化が進む地域で新たな産業を作るのは簡単なことではありません。しかし、お金をかけず、やり方を刷新することで地域にもともとあるものに価値をつけることはできる。赤字から収益の上がる農業にすることが、地域の活性化につながる」と小川さんは話します。

小川さんはこの事業を始めるにあたって、3年前から農地を借り上げ自らも農業を実践してきました。

【アクティブニュースより抜粋】

事業概要

“スマイル10アール”ってなに？

はじめまして！“スマイル10アール”を立ち上げた、小川治孝です。
いま、日本各地で農産が露地に立たされているのをご存じですか？
実は、広島県三次（みよし）市甲奴（こうぬ）町もその一つです。

私はこの状況を少しでも解決するために、「農家」と「企業」を結び、「スマイル10アール」に関わるすべての人が笑顔になれる取り組みをスタートさせました。

いま、“スマイル10アール”では、契約企業さまを募集しています。契約企業さまのご賛同によって、甲奴（こうぬ）町の農家と地域全体が活性化することは、全国の農業全体の発展・向上につながります。ぜひ、農業の足ながおじさんになって、私たちとともに、たくさんのHappyをつなげていきませんか？

～たくさんのHappyがつながる構図～

契約企業さまが、甲奴町の農家と契約を結び、10アール分の収穫米を購入	契約企業さまが、購入したお米を販促品として活用	収穫米の品質保持や地域活性化、農家への関心度向上など
農家の安定収入	企業の広告・宣伝 イメージアップ	農業全体の活性化

スマイル10アールは、日本の農業の新しいカタチをめざしています。
関わるすべての人に、メリットのある取り組みです！



